

牛久：学校周辺に見る自然

第41号 牛久二小，牛久二中，中根小，ひたち野西近隣公園

2010年10月25日発行

＜飛ぶタネが熟してきました＞

ようやく秋らしくなってきた、いろいろな木々の果実が熟してきました。そんな中から今回は、薄い翼をもって、それで落ちる時の滞空時間^{たいくう}をかせぎ、果実を遠くまで飛ばして分布を広げるしくみを獲得^{かくとく}した樹木たちを紹介します。



① アオギリ（アオギリ科：中根小・牛久二小）

亜熱帯地方の樹木ですが、公園や学校などにもよく植えられています。幹や枝が緑色（光合成をする）なのでアオギリ（青桐）の名がつけました。果実は舟のような形をした5枚に分離し、それらの縁に1～5個の種子がつきます。強い風が吹くとちぎれて飛ぶように出来ています。（写真は牛久二小のアオギリ）



② トウカエデ（カエデ科：牛久二中）

カエデの果実の大きな翼は果実の皮（果皮）がうすく広くのびたものです。マツの種子もこれとよく似ていますが、マツは裸子植物^{はくし}ですから、翼は種子の皮（種皮^{しゅひ}）がのびたものです。よく似ているからといって、必ずしももとになっているものが同じとは限らないのですね。同様の例を探してみましょう。



③ ニワウルシ（ニガキ科：牛久市久野町）

翼は果実の皮（果皮^{かひ}）がのびたものです。種子を中心にその両側に翼が伸びていて、風にのると、空中をクルクルと転げるように、縦に回転しながら飛んでいきます。このような果実をつける種類は、あまり見かけません。中国原産であちこちで野生化しているそうですが、二中の周辺には多いですね。



④ イヌシデ（カバノキ科：ひたち野西近隣公園）

関東の雑木林ではよく見かける木で、公園に植えられることもあります。この木はおそらくもともとあったものではないかなと思っています。果実の房^たが垂れ下がる様子が、しめ縄^{なわ}などの四手飾りに似ていることから「シデ」とついたようです。風に吹かれると一片ずつ回りながら落ちてきます。

【理科支援員・宮内】

（2/5のサイエンスフェスタ、私たちのブースでは飛ぶタネの模型作りもする予定です。ぜひおいで下さい。）